

平成 24 年度 日本老年看護学会 総会 議事録

日 時：平成 24 年 7 月 15 日（日） 13～14 時

場 所：金沢歌劇座大集会室（第 2 会場）

議 長：石垣 和子

報告者：理 事 長 太田喜久子

理 事 泉 キヨ子 大塚真理子 北川 公子 酒井 郁子 正木 治恵

水野 敏子 湯浅美千代

監 事 金川 克子

記 録：丸山 優（会員） 吉田 妙（事務センター）

1. 開会の辞

湯浅理事より、会員数 1,314 名のうち、委任状 507 通、出席者 41 名であり、会則 19 条に則り総会として成立している旨の報告があり、開会が宣言された。

2. 議長選出

議長選出にあたり、慣例により石垣和子第 17 回学術集会長が選出された。

3. 報告事項

1) 理事会、評議員会報告（総一資料 1）

太田理事長より、総一資料 1 に基づき、前年度総会以降の主な活動内容、および会議開催状況、議事について、以下のとおり報告があった。

(1) 主な活動内容

① 学術集会の準備

第 18 回学術集会は日本老年学会との合同開催となり、小西学術集会長を中心に準備を進めている。また、第 19 回学術集会長として百瀬由美子評議員、第 20 回学術集会長として正木治恵理事の推薦を行った。

② 日本老年学会活動の推進

平成 23 年度は日本老年医学会との共同研究「高齢者の摂食嚥下障害に対する人工的な水分・栄養補給法の導入をめぐる意思決定プロセスの整備とガイドライン作成」において、会員への調査、ガイドライン作成を行った。シンポジウムにおいて試案が発表され、堀内副理事長がシンポジストとして「認知症の人への終末期看護・看取り看護」について報告した。

③ 日本看護系学会協議会（JANA）との連携の推進

東日本大震災の支援活動の一環として、日本看護系学会協議会（JANA）と連携をとり、JANA と日本看護科学学会（JANS）との合同事業である義援金の募集においては、会員に協力を呼びかけるとともに、その義援金を災害看護支援金と位置づけ開始された災害看護支援事業への助成について情報を発信した。

④ 会員拡大に向けた検討

入会にあたり、看護学研究業績を必要としていたが、看護実践者の入会が難しい現状等を踏まえ、看護学研究業績または理事・監事・評議員の推薦を得ることを入会の要件とすることとした。

⑤ 名誉会員選出に関する内規案の整備、名誉会員の推薦

名誉会員選出に関する内規案の整備, および平成 24 年度名誉会員として中島紀恵子前理事長の推薦を行った.

⑥ 役員選挙の準備

平成 24 年度役員選挙にあたり, 「評議員選出に関する規定」を見直し, 理事・監事選出に関する内容を加えたうえで「役員選出に関する規程」として改めた. 現在, 選挙管理委員を選任し, 準備を進めている.

⑦ 研究倫理ガイドラインの検討

編集委員会を中心に, 研究倫理ガイドラインを検討してきたが, 利益相反などを検討するにあたり, その範囲が研究にとどまらないこと, また本学会倫理綱領を見直す必要があることから, 理事会において今後検討することとした.

⑧ 新規活動(生涯学習支援委員会, 災害支援委員会, 地方会準備)に向けての検討

下記 3 点について検討を行った.

- ・研修委員会準備委員会の検討を踏まえ, 老年看護の実践能力を高めるための研修を企画, 運営する「生涯学習支援委員会」を組織する.
- ・東日本大震災支援プロジェクトについて, 今後さまざまな災害時に対応するための準備を含め, 「災害支援委員会」を組織し, 活動を継続する.
- ・上記両委員会の活動を推進するにあたり, 学会全体を地域ブロックに分割して運営していくことが望ましいとの観点から, 「地方会」を立ち上げることとし, 準備を進める.

⑨ 会則の見直しの必要性

現在の活動に見合った会則とするため, 今後会則全体の見直しを行うこととした.

2) 総務報告(総一資料 1)

大塚理事より, 現在の会員数が 1,314 名である旨の報告があった. また, 総務(理事会の運営等), 庶務(会員の入退会に関する会員管理ならびに入会基準検討・名誉会員選出内規検討のための情報収集, 理事会の準備・議事録作成等), 会計(学会の予算全般の管理および, 平成 23 年度決算), 広報(ホームページの情報更新, 学会会報・日本老年看護学会ニュースの作成等)の活動内容についてそれぞれ報告があった.

3) 委員会等報告(総一資料 2)

(1) 編集委員会

北川委員長より, 第 16 巻 1 号, 2 号を年度内に発行した旨, および投稿論文の採択率について報告があった.

(2) 研究・教育活動推進委員会

酒井理事(山本委員長の代理)より, 平成 23 年 10 月 16 日(日)に東京医科歯科大学にてワークショップ「論文投稿へのチャレンジ」を開催した旨の報告があった.

(3) 老年看護政策検討委員会

泉副委員長より厚生労働省「チーム医療推進会議」の動きに合わせ, 特定看護師(仮称)・能力認証制度・特定行為について意見交換をしながら本学会としての考え方を整理したこと, また看保連に出席し, 看護行為の診療報酬化の検討に加わった旨の報告があった.

(4) 国際交流委員会

正木委員長より, 昨年度の日本老年看護学会第 16 回学術集会にて開催した交流集会「高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと, 選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国間での捉え方の相違から学ぶ」の報告を, 学会誌第 16 巻 2 号に掲載した旨, およびホームページにおいて, フィンランド, オランダの高齢者施設視察報告を掲載すると

もに、英語版ホームページを立ち上げた旨の報告があった。

また、今年度の活動方針・計画として以下の4点について説明があった。

- ①日本老年看護学会英語版リーフレットを作成する。
- ②第17回学術集会においても高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する交流集会を継続する
- ③The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG 2013)における高齢者の災害支援をテーマとしたシンポジウムを企画する。
- ④韓国をはじめとするアジア諸国（フィリピン、インドネシア、台湾、タイ、中国、香港、等）の老年看護学会との連携を進める（学術集会への参加等）。

(5) 研究論文表彰選考委員会

酒井委員長より第5回研究論文表彰について、下記論文が選考された旨の報告があった。

- ・優秀賞：該当なし
- ・奨励賞：【原著】特別養護老人ホームで「より良い看取り」を実施するための取り組み－研究者と実践者との共同によるミューチュアル・アクションリサーチ
16巻1号, 38-47, 2011.

小山千加代

(6) 研修委員会準備委員会

酒井委員長より、老年看護に携わる会員および非会員に対し、生涯学習支援を実施するため、内容等の検討を行い、枠組みを作成した旨の報告があった。また、委員を増員し、平成24年度発足の「生涯学習支援委員会」に引き継ぐ旨の説明があった。

(7) 東日本大震災支援プロジェクト

湯浅理事より、東日本大震災への支援について、日本看護系学会協議会と連携した情報収集と発信、ならびに学会員の行う支援に対し学会として支援していくことを方針とし、活動した旨の報告があった。また、今後起こりうるさまざまな災害に迅速に対応できるシステムを構築するため、平成24年度より太田理事長を委員長として「災害支援検討委員会」を組織し、活動を継続していく予定との説明があった。

4) 評議員選挙について（総一資料3）

太田理事長より資料3を基に、平成24年度評議員選挙に際し、「役員選出に関する規程」を整備した旨、インターネットによる選挙を行う旨、選挙権および被選挙権、投票期間等について説明があった。

以上、1)～4)の報告事項に対し、出席者の拍手による採決の結果、これを承認した。

4. 協議事項

1) 平成23年度決算報告（総一資料4）

水野会計担当理事より資料4を基に以下のとおり説明があった。

- ①収入の部については、会費収入：11,840,000円（正会員1,234名中1,141名）、学会誌等販売費：99,240円、利子・雑収入：3,839,157円（第16回学術集会からの寄付金・個人寄付金、ワークショップ参加費、DVD頒布還付金等を含む）、前年度繰越金：12,957,323円を含め、合計29,735,720円の収入があった。
- ②支出の部については、学会誌作成委託費：4,247,597円（16巻1,2号）、その他編集委員会費：831,369円、理事会費：440,274円、研究・教育活動推進委員会：185,052円、国際交流委員会：249,972円、学会事務委託費：2,532,473円、他会計繰入支出（特別会計）：6,000,000円を含め、合計17,978,361円を支出し、次年度への繰越金を11,757,359円とした。

③学会積立金特別会計については、受取利子：2,417円、平成23年度一般会計からの繰入（活動積立金・その他）：6,000,000円、前年度繰越金：5,031,745円を含め、次年度への繰越金を11,034,162円とした。

2) 平成23年度決算監査報告（総一資料4）

金川監事より、小西監事とともに平成24年5月12日に、通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果、平成23年度の決算書が適正かつ正式であった旨が報告された。

3) 平成24年度事業計画（案）（総一資料5-1）

太田理事長より、資料5-1を基に下記13項目について説明がなされた。

①第17回学術集会の開催

②学会誌第17巻1, 2号の発行

③老年看護学に関わる研究、教育活動の推進（研究・教育活動を推進するためのワークショップ等の開催／老年看護実践の質向上に関わる研究課題を明らかにし、厚生科研など研究助成を得て学会として研究活動を推進）

④生涯学習事業の推進（生涯学習事業の計画と開始）

⑤老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進（老年看護の制度・政策における課題の明確化、取組み体制、事業の推進／老年看護技術のエビデンス蓄積を目指したプロジェクトの立ち上げ）

⑥災害支援事業の推進（老年看護の立場から災害支援を検討し、推進）

⑦地方会の立ち上げ準備（学会組織の基盤強化のため、地方会立ち上げに向け準備）

⑧学術組織、看護系諸学会との連携、推進（日本看護系学会協議会、日本学術会議等との連携、推進）

⑨内外の老年学会における活動の推進（日本老年学会、国際老年学会ならびに老年看護分野との連携、推進）

⑩表彰論文の選考

⑪ホームページの充実

⑫役員選挙の実施

⑬その他本学会の目的とする事業

4) 平成24年度予算（案）（総一資料6）

水野会計担当理事より資料6を基に以下のとおり説明があった。

①収入の部については、会費収入：12,090,000円（正会員1,300名中1,209名）、学会誌等販売費：100,000円、利子・雑収入：300,000円（著作権使用料等）、前年度繰越金：11,757,359円を含め、合計25,247,359円の収入とした。

②支出の部については、学会誌作成委託費：4,300,000円（17巻1, 2号）、その他編集委員会費：1,000,000円、研究・教育活動推進委員会：300,000円、国際交流委員会：450,000円、選挙費：560,000円、学会事務委託費：2,650,000円、地方会立ち上げ準備費：200,000円、総務事務費：1,000,000円、他会計組入支出（特別会計）：5,000,000円を含め、合計20,490,000円を支出し、次年度への繰越金を4,757,359円とした。

③学会積立金特別会計については、受取利子：2,500円、平成24年度一般会計からの繰入：4,000,000円、前年度繰越金：11,034,162円を含め、次年度への繰越金を16,036,662円とした。

5) 平成25年度事業計画基本方針（案）（総一資料5-2）

太田理事長より、資料5-2を基に下記12項目について説明がなされた。

①第18回学術集会の開催（第29回日本老年学会における合同開催）

- ②学会誌第 18 巻 1, 2 号の発行
- ③老年看護学に関わる研究, 教育活動の推進
- ④生涯学習事業の推進
- ⑤老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑥災害支援事業の推進
- ⑦地方会の立ち上げ
- ⑧学術組織, 看護系諸学会との連携, 推進
- ⑨内外の老年学会における活動の推進
- ⑩表彰論文の選考
- ⑪ホームページの充実
- ⑫その他本学会の目的とする事業

以上, 1) ~5) の協議事項に対し, 出席者の挙手による採決の結果, これを承認した。

5. 学術集会について

1) 第 18 回学術集会 (第 28 回日本老年学会総会)

小西第 18 回学術集会長より, 下記内容について説明があった。

- ・開催日: 2013 年 6 月 5 日 (水) ~6 日 (木) *6 月 4 日 (火) は日本老年学会合同プログラム
- ・会 場: 大阪国際会議場
- ・テーマ: 輝く老いを拓く老年看護学の構築
- ・演題登録期間: 2012 年 12 月 10 日 (月) ~2013 年 1 月 25 日 (金)

2) 第 19 回学術集会

百瀬第 19 回学術集会長よりご挨拶があった。

6. 名誉会員証授与

中島紀恵子前理事長に対し, 太田理事長より日本老年看護学会名誉会員証が授与され, 中島前理事長よりご挨拶があった。

- ・平成 24 年度認定名誉会員: 中島紀恵子

7. 表 彰

酒井研究論文表彰選考委員長より, 第 5 回研究論文表彰の発表が行われ, 下記の受賞論文 1 題に対し賞状および副賞 (楯) が太田理事長より贈呈された。

- ・奨励賞: 「特別養護老人ホームで「より良い看取り」を実施するための取り組み: 研究者と実践者との共同によるミューチュアル・アクションリサーチ」

16 巻 1 号, 38-47, 2011.

小山 千加代

8. 閉会の辞

湯浅理事より, 閉会の辞が述べられ, 閉会となった。